



びこれらを主剤とする複合剤の開発に成功した。

植物工学研究部では、21世紀の食糧危機に対応すべく、薬培養を利用した半数体育種、培養中の突然変異の利用、プロトプラストの培養を

基礎とする細胞融合、組換えDNAによる新しい形質の導入等バイオテクノロジーによる水稲、野菜の品種改良に取り組んでいる。この他にも、植物の培養細胞による物質生産を手がけており将来への夢を育てている。

農薬は正しく使いましょう。



●水田除草剤

ヨートル® 粒剤

◆一発処理でも高い防除効果を示す水田初期除草剤

- 広範囲の雑草に効果があります。
- 処理適期幅が広く、使いやすい除草剤です。
- 雑草がダラダラ発生する場合でも安定した効果があります。

一発いちはん!

ヨートル普及会

人 事 往 来

農業工業会では、5月26日開催の第56回通常総会において理事が改選され、続いて開催された臨時理事会において次記の役員が選出された。

- 会 長 小平 祐（日本農薬株式会社）
代表取締役社長）
- 副会長 望月信彦（クミアイ化学工業株式会社）
代表取締役社長）
- 副会長 彌永一進（日本曹達株式会社）
常務取締役農医薬本部長）
- 専務理事 佐々木亨（再任・常務理事）

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京（03）832-4188（代）

昭和62年7月発行
植調第21巻第4号 定価400円（送料170円）

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長 人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸 七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京（03）833-1821番（代）